

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072300268		
法人名	社会福祉法人共立福祉会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	長野県諏訪郡下諏訪町東町中1-556-1		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072300268&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの出来る事を見極め、援助するようにしている スタッフの持ち味を活かし、明るく家庭的なグループホームにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅が密集する中にあり諏訪湖が一望できる日当たりと見晴らしの良い高台に設置されている。春は近隣の桜、夏は花火と四季を肌で感じるとともに生活感も味わうことが出来る。共立福祉会を母体を持ち、社会福祉法人共立福祉会「運営理念」を職員間で共有してケアサービスの提供に努められている。管理者は福祉の専門性と経験を活かし地域密着型サービス事業所の社会的役割の意義を認識し、地域生活の継続支援とホームと地域との関係性を重視しつつ、日々のサービス提供場面(言葉掛け、態度、記録等)に気配りをして職員の指導に当たられている。ホームは住環境も良く入居者と職員の間関係性が築かれており、入居者は明るくいたわり合いながら穏やかに過している。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者とスタッフで共有できていない。	母体の社会福祉法人の理念を事務所等に掲示し管理者は職員と理念の共有に努められている。	法人全体の理念を基盤にしつつ、グループホーム独自の個別の理念を職員間で話し合い作成し、管理者は日々の方針や目標に具体化した内容で職員に伝え日常的に話し合い、理念を共有し実践に繋げられることを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリスマス会や花見などに地域の方を招待しているが、出席される方がいない。	ホームは地域住民の一員として町会に加入しており、ともに暮らす地域住民の一員として地域との交流を図るため、クリスマス会や花見などホーム行事に地域の方々へ招待をされている。しかし出席者がいないことを伺った。	ホームの行事案内を町会の回覧板に載せていただく等の取り組みや、地域の行事にも積極的に参加される等により近隣住民とのふれ合いの機会を多く持ち、入居者が地域で暮らし続けるための基盤づくりに期待する。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	何もしていないが、地域から要望があれば答える。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かさきれていない。	運営推進会議には入居者、ご家族、町会長、民生委員、市担当職員、地域包括センター職員等の出席のもと開催し、ホームからの報告や出席者より意見や質問を頂く等双方向的な会議になるよう配慮されている。	今回の外部評価結果を出席者に公表し、評価より明らかになった課題について会議において報告して、今後の取り組みについて参加者より意見や提案を頂きホームのケアサービスの質の向上が図られることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実情などは連絡していない。	運営推進会議のみに市担当職員が出席されており、ホームの現況や取り組み等伝え意見等を頂き協力を頂いている。	今後更にホームの専門性を活かし認知症予防教室や介護教室などを受諾して市担当職員と協力のもと開催に向け開催することを期待する。

外部評価結果(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	完全に正しく理解していないが、身体拘束をしないケアに努めている。	日頃から身体拘束をしないケアに努められている。鍵をかけない暮らしの大切さを職員全員が理解されており、訪問時玄関に施錠はされていないかった。	今後更に「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」等について勉強会をホームの中で実施し、職員の共有認識を図られるよう期待する。なお入居者の安全を確保しつつ抑制感のない自由な暮らしを支援するために、予測されるリスクについてご家族と話合わせられ納得と理解を得ることが望まれる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の学習会等は行っていない。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加できていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書等を一緒に読み合わせ、その都度疑問点などに答えている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見がなかなか出てこない。	運営推進会議への出席時や面会時、ホーム玄関にめやす箱を設置し、ご家族の意見の表出場面づくりがされている。しかし意見・不満・要望等が出されないことを伺った。	ご家族からの意見や要望を待っているのではなく、ホーム側からホームの環境や提供食等についての課題を設け聞き取り方式を試みる取り組み等、意見の表出への工夫を期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や、年に一度の面接時又はその都度意見を聞き、それを管理者会議等で話し合い取り入れている。	職員会議や面接時(年1回)なお職員より意見・提案を出された折には聞き取り、管理者会議において話し合い反映されている。	

外部評価結果(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思う。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の場を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不十分である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり時間を共にして耳を傾けていた。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と電話などで情報交換して関係作りをした。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前サービスを受けていた所より情報をいただき、利用者に合ったプラン作りをしている。		

外部評価結果(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗濯、掃除等一緒にやっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	花見やクリスマス会等の場を設け、絆を大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が連れ出して下さったり、敬老会等に出席している。	ご家族と出かけられたり、住所所在地より招待を頂いた敬老会に出席して馴染みの知人や友人と交流を図られている。	地域社会との関わりを継続していくために、ご家族より人間関係(交友関係)を聞き取り情報を把握して、入居者に代わって関係性の継続に向けた取り組みを期待する。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が困っている時などに他の利用者に声掛けや手助けしてもらう様に、職員から声を掛ける。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了したことがないためわからない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見を聞き、スタッフ会議等で検討している。	日常の関わりの中より入居者の思いや意向の把握に努められている。(食事づくり、食事時、入浴時、買い物への外出時等に思いや、意向が伺えることを伺った)	

外部評価結果(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	反映させている。	入居者一人ひとりの担当者があり、毎月開催される職員会議において全職員で話し合い、入居者やご家族の意向を伺い現状に即した介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時々の利用者の具合や状況に応じて、スタッフ間で情報を話し合い対応している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流が薄いため取り組めていない。		

外部評価結果(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている。	入居者、ご家族が希望されているかかりつけ医による医療を受けられるよう支援されている。基本的にはご家族による受診支援となっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援できている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行えている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、家族との話し合いを設けようと考えているところである。	入居者の高齢化に伴い身体機能の低下が見られる中、入居者やご家族と話し合いを重ね重度化に伴ないホームで対応し得る最大のケアについて話し合うとともに、看取りに向け体制を整える努力がされている。	今後利用者やご家族の意向を踏まえ、意思の確認書の作成や看取りの指針等を作成し、職員の力量アップに務め医師、職員が連携を取り、安心して納得した最期を迎えられるような取り組みに期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が実践力を付けていない。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制が築けていない。	年2回入居者とともに避難訓練を行っている。しかし地域との協力体制が得られていない。	第1、第2避難場所を設定して昼夜を通じて具体的な避難誘導策をマニュアルに組み入れ職員に周知を図ることが望まれる。なお入居者の身体機能低下に伴い職員のみでの避難には限界があり、地域住民の協力体制を構築し安全と安心に繋がるよう期待する。

外部評価結果(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	損ねてしまうような言葉かけが時々みられてしまう。	入居者一人ひとりに合った言葉掛けに気配りをされている。入居者より「この職員はみんな優しいよ、寂しくないし、いいところ」と言うことができた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけできている(買い物や献立等聞いている)。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表の下、生活している。一人ひとりの希望には完全には沿えていない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へ行ったりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常にできている。	週2回の買い物に出かけ入居者に食べたい物を聞いて購入し、食事に関する一連の作業(調理の下ごしらへ・盛り付け・配膳・下膳、食器洗い等)を職員とお話をしながら行い、職員と同じテーブルで楽しく食事をされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援できている。		

外部評価結果(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けしたり、うがいを促している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援できている。	排泄チェックシートを活用して入居者一人ひとりのトイレサイクルを把握し、排泄パターンに応じた個別の支援が行われている。出来るだけ自立に向けた支援体制をとり、パット使用者でトイレに流してしまわれる方には居室にポータブルを置き使用できるよう工夫がされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日課表に基づいて支援してしまっている。	週2回(夏場は3回)曜日を決めて(月金・火土)午前9時半～11時に入浴支援が行われている。入居者にはお風呂嫌いの方がおり、穏やかに促されていた。	今後入居者のお風呂習慣や希望に副った入浴体制に向けた取り組みに期待する。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が把握できていないが、変化の確認はできている。		

外部評価結果(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の身体状況に応じて食事作り、掃除など協力していただいたり、季節の行事や誕生日会等を行い、食べたい物の希望を聞いて対応している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1~2度の外出の機会をつくっている。	隣接する福祉施設に了解を得て広い庭を散歩されている。なお買い物や月に1~2回の頻度で外食や昼食を持ってドライブ等に出かけホームに閉じこもらない生活の支援に努めている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年に2度位、買物ツアーで自分のお金で自分の食べたい物を買う機会をつくっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花などを飾っている。	居間に居ながらにして窗外眼下に広がる住宅街の先に諏訪湖が望め、生活感と季節感が味わえる。夜には100万ドルの夜景も見られるとのお話で入居者は「とても良いところ」と居心地よく大変穏やかにすごされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に工夫はしていない。		

外部評価結果(グループホームさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に任せている。	ご家族が入居者と相談し馴染みの物品を持ち込み、入居者一人ひとりの居心地良く過ごせる居室づくりに配慮されている。(テレビ、整理ダンス、椅子、位牌、ぬいぐるみ、家族写真等が持ち込まれている)	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や風呂場、トイレなど部屋に案内板(名札)を貼り、手すりをつけている。		